東京都写真美術館
年報 2016－17

Annual Report:
Tokyo Photographic Art Museum 2016－17

TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

東京都写真美術館年報2016－17

Annual Report: Tokyo Photographic Art Museum 2016－17

はじめに

東京都写真美術館は、平成26年秋から休館し、2年にわたり実施していた大規模改修工事を終え、平成28年9月3日にリニューアル・オープンいたしました。

エレベーターを増設したほか、1階エントランスホールを明るく開放的なイメージに刷新し、2階、3階展示室はフローリングに、また、ミュージアム・ショップやカフェを新装オープンするなど、お客様へのさらなるサービス向上を図りました。また、平成28年は総合開館20周年ということもあり、リニューアル・オープンに合わせて、新しいシンボルマークとロゴタイプを制作し、愛称を「トップミュージアム（TOP MUSEUM）」としました。

リニューアル・オープン前日には、美術館関係者をお招きして、記念式典及び内覧会を開催したほか、リニューアル・オープン、「杉本博司　ロスト・ヒューマン」展を皮切りに、「総合開館20周年記念」と題して、様々な展覧会や関連イベントを行いました。

2月には、「第9回恵比寿映像祭」を開催しました。今回は、「マルチプルな未来」をメインテーマとして、恵比寿ガーデンプレイス、日仏会館などの近隣施設と写真美術館全館を活用し、国内外の作家、ゲストによる映像作品の展示、上映、ライヴ・イベントやシンポジウムの開催など様々なプログラムを実施しました。

写真美術館の基盤をなす作品収集におきましては、東京都をはじめ当館の支援会員である企業、団体、作家のみなさまのご支援により、厳選した質の高い作品、歴史的にも貴重な作品615点を、新たなコレクションとして加えることができました。

教育普及の分野では、学校と連携したスクールプログラムや初心者から上級者までを対象とした当館ならではのワークショップを開催し、教育普及ボランティアの協力のもとに写真や映像を通じて豊かな学びの場を提供してまいりました。また、人材育成にも力を入れ、海外からのインターンを受け入れました。

地域活動においては、地域の文化施設が集う「あ・ら・かるちゃー文化施設運営協議会」の活動により、同地区の文化施設の魅力向上に寄与してまいりました。

新たな歩みをスタートさせた東京都写真美術館は、「恵比寿の顔となる美術館」を平成28年度の運営の基本コンセプトに掲げ、今後も、世界に向けて優れた写真・映像文化を創造・発信するとともに、地域に親しまれる文化施設としての役割を果たし、専門性とホスピタリティに支えられた館運営を行っていきます。

本書が、みなさまにとって当館を知るための参考になれば幸いです。

東京都写真美術館

目次

平成28年度事業

東京都写真美術館の基本的性格 …… 5

東京都写真美術館の事業内容 …… 6

東京都写真美術館の戦略的運営 …… 7

リニューアル・オープン／総合開館20周年記念事業 …… 14

展覧会事業 …… 16

教育普及事業 …… 24

作品資料収集／作品収集実績 …… 31

平成28年度新収蔵作品の紹介 …… 34

調査研究・普及活動（個人） …… 39

広報事業 …… 43

保存科学研究室 …… 48

図書室 …… 49

実験劇場 …… 51

支援会員 …… 57

ミュージアムショップ／カフェ …… 61

数字で見る東京都写真美術館 …… 62

美術館条例 …… 67

施行規則 …… 70

開館の経緯／組織図 …… 72

フロアマップ／施設面積 …… 73

建物概要／設備概要 …… 74

利用案内 …… 75

東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像文化全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

1. 写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。
2. 写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。
3. 写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。
4. 写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。
5. 日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。
6. ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。
7. 歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館*」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

（平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より）

* なお「映像工夫館」では現在「地下1階展示室」として映像展をはじめ各種展覧会を開催しています。

東京都写真美術館の事業内容

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約3万3千点（平成28年3月現在）の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展・映像展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との誘致展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会や、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、鑑賞ワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ギャラリートーク、博物館実習生、インターンの受け入れ、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料に関する情報の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画の上映を行う。

10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開する。

東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館では、平成18年3月2日、館のミッションを次のように策定しました。

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日　東京都写真美術館館長　福原　義春※

**「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、
センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」**

〈過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館〉
貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子供や若者達に積極的に文化発信を行います。

〈質の高い写真・映像文化と出会う美術館〉
社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

〈写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館〉
美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

〈写真・映像文化の拠点として貢献する美術館〉
国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

〈開かれた美術館〉
来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

※第４代館長、名誉館長

「東京都写真美術館は、写真・映像分野の世界のトップ美術館を目指します」

写真・映像を通して、世界と行き交う、世代が行き交う、互いの違いを受け入れあう、そんな未来型美術館を目指します。

1 世界有数の写真・映像コレクションの構築と、世界への発信

○国際ネットワークの構築

世界の関係機関との信頼関係を築き、ネットワークを強化し、国際シンポジウムの開催、海外への企画展・収蔵展の巡回、共同企画、ワークショップ等の開催を促し、世界に向けて日本の写真・映像の魅力を伝え、相互交流を活発化させる。

○画像WEB公開など情報システムの充実

写真美術館の所蔵作品の画像ＷＥＢ公開等の取組を強化し、都民をはじめ世界中の人々に広く発信する。

○情報発信力の強化

ホームページの刷新や広報誌、プレス等の従来型の活動に加え、海外メディア・ネットワークを広げ、美術館における複数言語対応など、国際化広報スキームを構築し、国際発進力を高める。多彩な手段による新たな発想の広報活動を展開し、アウトリーチを高めていく。

2 写真・映像の可能性に挑戦する新進作家の支援

○日本の次世代を代表する旬の作家の個展や新進作家展の開催

様々な価値観や世代が交流するきっかけとするため、一過性ではなく、持続可能な文化的事業として位置づけ、連続的に開催することによって、長期的な遺産となるよう展開する。また、作家が展覧会を契機に世界進出できるようなシステムの構築を目指す。

3 来館者につねに感動を与える美術館

○話題の国際展の開催

現在最も世界的に活躍しているアーティストの展覧会や19世紀の初期写真、世界が直面するテーマに関する国際展などを開催することにより、国際都市東京をアピールし、優れた写真・映像の鑑賞機会を提供する。

○実験劇場の刷新

写真・映像の専門美術館ならではの映画館として、ラインナップを磨きさらなる魅力を高める。

4 来館者の立場に立った開かれた美術館

○文化施設連携事業・地域連携の強化「あ・ら・かるちゃー文化施設運営協議会」

魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、地域社会に活力を与えると共に地域の新たな原動力となるグループの創造を促す。

○スクールプログラム等の学校との連携、ボランティアとの協働、あらゆる人が享受できる多彩なワークショップ

次世代を担う児童・生徒の可能性を引き出すと共に、子供から上級者まで様々なニーズを充たす、より魅力的なプログラムを人々に提供する。

○支援会員制度の強化

企業・団体との協力をより強化する。

5 過去と現在、先端技術と芸術文化が融合する、領域横断的なフェスティヴァルの実施

○「恵比寿映像祭」のヴァージョン・アップ

国際フェスティヴァル「恵比寿映像祭」の国際発信力に磨きをかける。

国内外の先端的なアーティストを招集すると共に、領域を横断した作品や過去の名作を取り上げ、展示、上映、ライヴ・イヴェント、講演、トーク・セッションなどを複合的に実施する。

映像分野における創造活動の活性化を図り、優れた映像表現を、過去から現在、未来へと継承し、異なるジャンルの対話を促す場とする。

6 未来に向けた文化の継承

○適切な作品収集、管理、保存による貴重な作品の次世代への継承

計画的な収集、保存科学の研究に基づいた最適な作品管理によって、都民の貴重な財産である作品・資料を、次世代に継承する。

○外部収蔵庫・施設の確保・運営

作品の大型化・デジタル化により、全作品の美術館内収蔵が困難であることから、外部施設を確保し、貴重な作品を次世代に継承する。

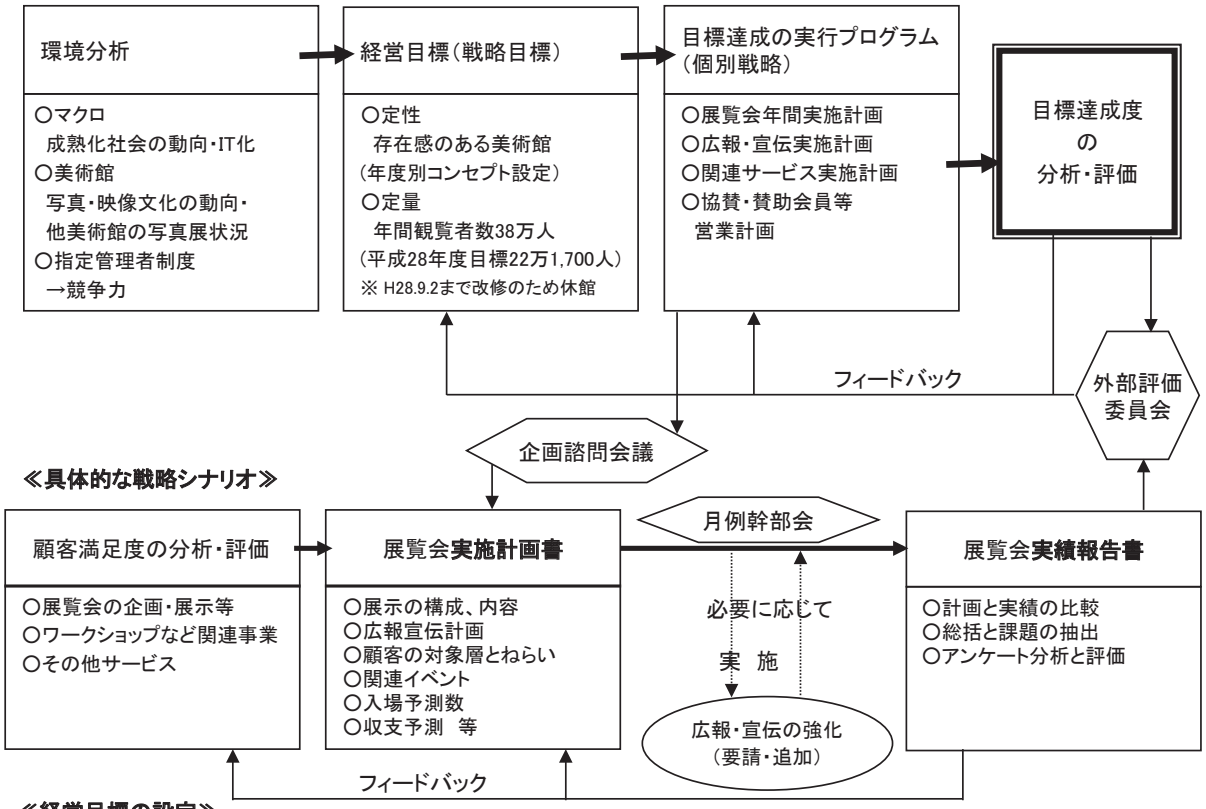
○ここに来れば世界中の写真集が見られる、世界一の図書室

写真・映像の専門図書室として、写真・映像に関するすべての資料が揃う、一般の人から専門家までが満足するワン・アンド・オンリーの図書室を目指す。

制定年月日：平成27年3月2日

東京都写真美術館における戦略的な運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



≪経営目標の設定≫

定　性　目　標　　**「存在感のある」**美術館運営

とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。

○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術･音楽･映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。

○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

年度別コンセプト

平成13年度 「静かな賑わい」
平成14年度 「写真(映像)とは何かを伝える」
平成15年度 「感動を与える」
平成16年度 「明るく迎える美術館」
平成17年度 「信頼される美術館」
平成18年度 「判りやすく説明する美術館」
平成19年度 「対話する美術館」
平成20年度 「顔が見える美術館」
平成21年度 「交流を広げ、つながりを強める美術館」
平成22年度 「お客様のニーズにチャレンジ！」
平成23年度 「広報マインドと実践」
平成24年度 「発信、写美から世界へ」
平成25年度 「楽しみ方いろいろ美術館」
平成26年度 「未来を創造する美術館づくり」
平成27年度 「『写真美術館らしさ』とは何か？」

平成28年度　「恵比寿の顔となる美術館」

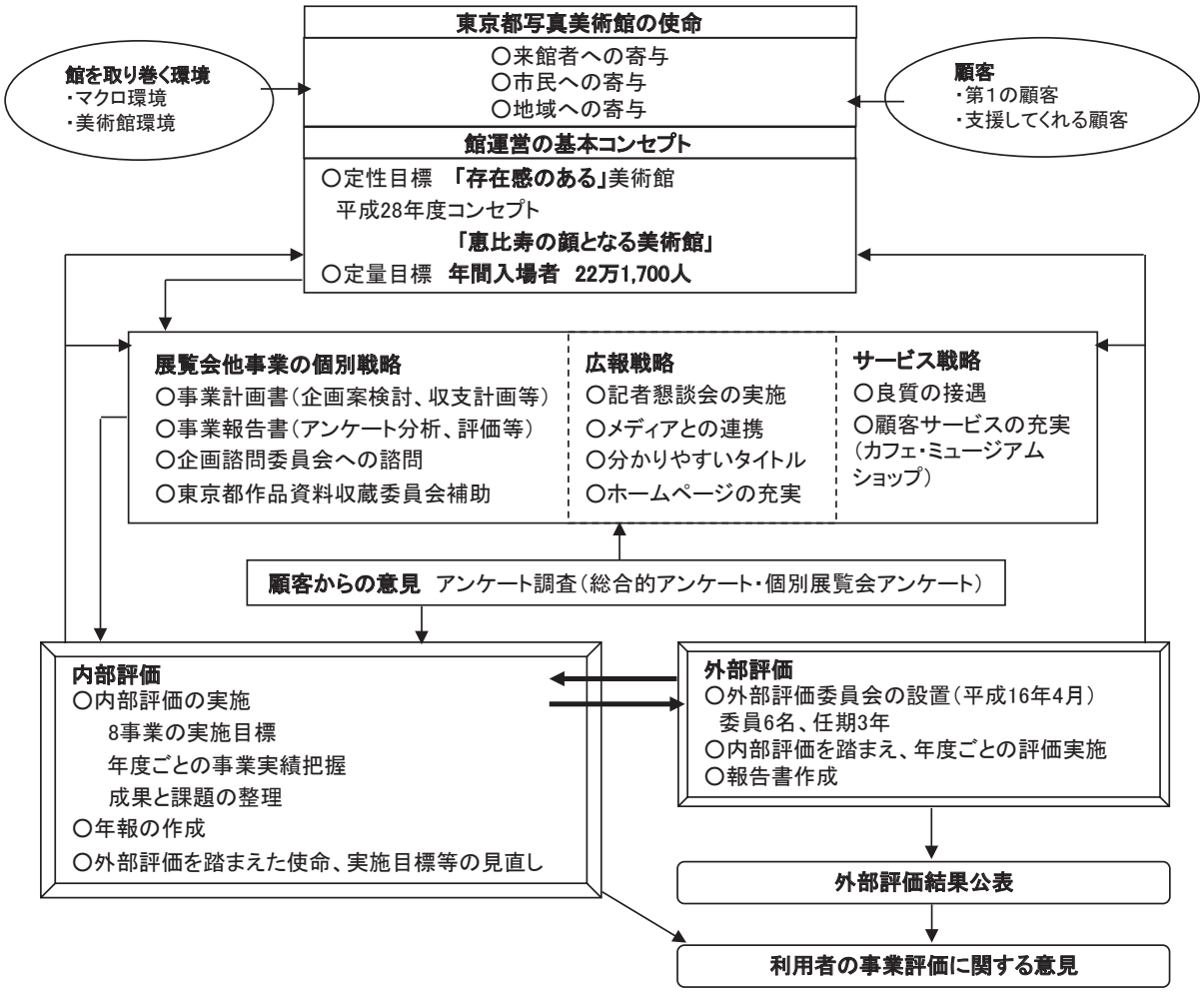
定　量　目　標　　**年間入館者　38万人超**

平成13年度	227,183人	（前年度比	1.04倍）
平成14年度	364,307人	（〃	1.6倍）
平成15年度	413,289人	（〃	1.1倍）
平成16年度	431,521人	（〃	1.04倍）
平成17年度	441,705人	（〃	1.02倍）
平成18年度	443,107人	（〃	1.01倍）
平成19年度	365,871人	（〃	0.83倍）
平成20年度	415,456人	（〃	1.14倍）
平成21年度	428,514人	（前年度比	1.03倍）
平成22年度	427,223人	（前年度比	0.99倍）
平成23年度	429,657人	（〃	1.01倍）
平成24年度	407,382人	（〃	0.95倍）
平成25年度	404,256人	（〃	0.99倍）
平成26年度	212,115人	（〃	0.52倍）
平成27年度	38,497人	（〃	0.18倍）

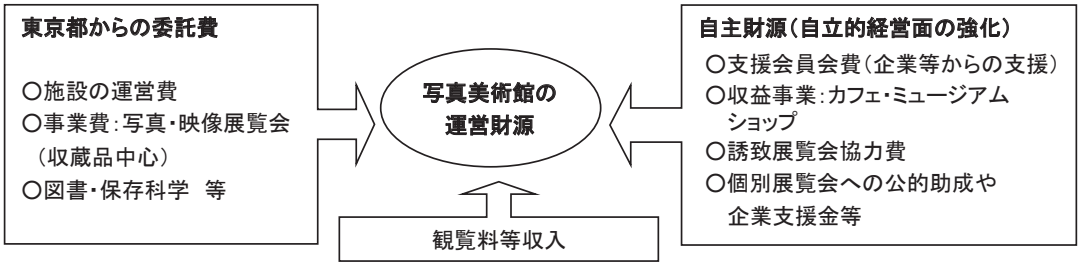
平成28年度 270,066人（前年度比 70.15倍）

※ H28.9.2まで大規模改修工事のため休館

館運営と事業評価の概念



運営財源



東京都写真美術館の中長期的な目標である「存在感のある美術館」を達成するための活動として、平成28年度の年度コンセプトを、「恵比寿の顔となる美術館」と設定した。

恵比寿の顔となる美術館

リニューアル・オープン記念式典の実施、新ロゴの制作・発表、総合開館20周年を記念した周年史の配布、広報事業、展覧会の実施などにより、新しくなった東京都写真美術館を印象づけ、その存在感を広く示す取組を行った。

展覧会

・リニューアル・オープン　総合開館20周年記念展覧会として、12本の展覧会を開催した。
・「第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来」を開催した。

作品収集

・平成28年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会を経て、615点の作品を収集した。
・収蔵作品合計34,008点（平成29年3月31日時点）

作品管理

・既収集作品の著作権処理や作品データの整備
・大規模改修工事終了後の作品移送

教育普及事業

・充実したワークショップ、ギャラリートーク、スクールプログラムなどを数多く実施

◆恵比寿映像祭

・写真美術館全館を利用した本来の姿での開催となり、様々な方法による映像表現の紹介（展示、上映、ライヴ・イベント、シンポジウム、レクチャー等）を行った。

◆図書室

・横断検索システムにより館外からの図書情報検索の充実、展覧会関連書籍の積極的公開などを行った。

◆支援会員向けイベント

・支援会員向けにギャラリートーク、講演会を実施

◆広報活動

・新シンボルマーク・ロゴタイプの策定、総合開館20周年史の配布、ホームページの改修、記者懇談会の開催など積極的な広報戦略を展開

◆その他

・東京文化プログラム＆レガシー事業の準備
・2020東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けた財団内連携事業の準備

企画諮問会議

座長　建畠　哲　京都市立芸術大学学長
副座長　倉石　信乃　明治大学大学院理工学研究科
新領域創造専攻ディジタルコンテンツ系教授
林　道郎　上智大学国際教養学部教授
蔵屋　美香　東京国立近代美術館美術課長
岸　桂子　毎日新聞学芸部副部長
福永　治　広島市現代美術館館長
浅葉　克己　アート・ディレクター

開催日　平成28年11月24日（木）
議　題　平成27年度実績及び平成28年度活動方針及び活動報告について（報告事項）
審議事項　平成32年度展覧会企画提案について（報告事項）

外部評価委員会

座長　樺山　紘一　印刷博物館館長
副座長　鈴木杜幾子　明治学院大学名誉教授
（文学部芸術学科）
三浦　篤　東京大学大学院総合文化研究科教授
清水　真砂　世田谷美術館美術課分館長　学芸員
小川　敦生　多摩美術大学美術学部芸術学科教授
（元日本経済新聞社文化部記者）
矢野　富子　写真美術館ボランティア

第1回外部評価委員会
開催日　平成28年4月28日（木）
議　題　平成27年度事業内部評価報告の聴取について

第2回外部評価委員会
開催日　平成28年5月31日（火）
議　題　平成27年度事業に関わる外部評価報告（まとめ）について

作品資料収蔵委員会

【収集部会】
委員長　高階　秀爾　大原美術館館長
岡野　晃子　IZU PHOTO MUSEUM館長
香川　檀　武蔵大学人文学部教授
椹木　野衣　多摩美術大学教授
竹内万里子　京都造形芸術大学准教授
田中　正之　武蔵野美術大学教授
【評価部会】
荒木　夏実　森美術館キュレーター
飯田志保子　キュレーター/東京藝術大学準教授
石田　克哉　MEMディレクター
高橋　朗　PGIディレクター
松永真太郎　横浜美術館主任学芸員
南　雄介　国立新美術館副館長・学芸課長
矢野　進　世田谷美術館学芸部美術担当マネージャー（課長）
和光　清　ワコウ・ワークス・オブ・アート代表取締役

開催日　平成28年12月2日（金）
議　題　平成28年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

第1回記者懇談会
開催日　平成28年6月8日（水）
出席者数　18媒体、25名
内容
・平成27年度 事業報告及び平成28年度運営報告
・総合開館20周年記念事業のラインナップ、リニューアル・オープン概要説明
・法人支援会員紹介
・館内各施設案内
懇談会

第2回記者懇談会
開催日　平成29年1月18日（水）
出席者数　17媒体、20名
内容
・平成28年度事業実績報告
・平成29年度東京都写真美術館事業の概要説明
・「第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来」説明
・平成28年度 新規収蔵品紹介
懇談会

平成28年度 トピックス

4月1日	伊東信一郎新館長就任
4月18日	恵比寿ガーデンプレイス内での東京都写真美術館での業務開始
4月28日	第1回外部評価委員会 平成27年度事業内部評価報告
5月31日	第2回外部評価委員会 平成27年度事業に関わる外部評価報告
6月 2日	写真映像文化振興支援協議会 「支援会員企業交流会」 於：キヤノン株式会社本社ギャラリー
6月 8日	第1回記者懇談会 伊東信一郎新館長を迎え、美術記者、 新聞社文化部記者等を対象に平成28年度第一回目を開催
9月 2日	リニューアル・オープン記念式典・特別鑑賞会、小池百合子都知事来館
9月 3日	リニューアル・オープン 開館前から行列ができるほど、 多くのお客様が来館
9月 5日	写真映像文化振興支援協議会 理事会・懇親会 平成27年度事業実績報告及びギャラリートーク・懇親会の実施
10月 1日	都民の日 展覧会無料サービス
11月11日	写真映像文化振興支援協議会 「支援会員企業交流会」 於：凸版印刷株式会社印刷博物館
11月24日	企画諮問委員会 平成27年度実績・平成28年度活動方針 及び活動報告、平成32年度展覧会企画提案
11月28日	東京都写真美術館自主防災訓練
12月 2日	作品資料収蔵委員会
1月 2日・3日	お正月特別開館 2日は展覧会無料、3日は割引サービスを実施。 その他イベント多数実施
1月18日	第2回記者懇談会 平成28年度事業実績報告、 平成29年度事業の概要説明等

リニューアル・オープン

東京都写真美術館は、およそ2年間にわたる大規模改修工事を終え、平成28年9月3日にリニューアル・オープンした。

1 事務室等移転業務

（1）写真美術館事務室の再開
4月中旬リニューアル準備室（千代田区神田淡路町2丁目12番地：旧千代田区立神田保育園仮園舎）から、元の東京都写真美術館（目黒区三田1-13-3恵比寿ガーデンプレイス内）へ事務所機能を移転した。

（2）写真等収蔵作品・資料の移送
外部収蔵庫へ預け入れていた3万点以上の写真・映像作品、資料の移送

（3）図書資料の移送
外部倉庫へ預け入れていた9万点以上の図書資料の移送

2 主な施設・設備等整備内容

（1）エレベーターを増設
（2）1階エントランスホールを明るい内装へ刷新
（3）2階及び3階展示室の床をフローリング化
（4）館内外のサイン・ロゴなどを刷新
（5）受付にチケッティングシステムを導入
（6）ホール機器をDCPの導入を始め刷新
（7）ミュージアムショップ及びカフェをそれぞれ新装オープン

3 記念式典

（1）開催日及び場所
平成28年9月2日（金）東京都写真美術館1階ホール

（2）参加者
167名（都議15 都23 財団15 他来賓73 都庁プレス41）
小池都知事、伊東館長、岡田財団副理事長、川井都議会議長、記念展作家杉本博司氏、芸術文化評議員など

（3）次第
① 開　　会
② 挨　　拶　東京都知事 小池 百合子
東京都写真美術館長 伊東 信一郎
公益財団法人東京都歴史文化財団副理事長 岡田 至
③ 来賓祝辞　東京都議会議長 川井 しげお
④ 来賓紹介
⑤ 施設紹介
⑥ 閉　　会

総合開館20周年記念事業　国際シンポジウム
International Symposium for the 20th Anniversary of the Tokyo Photographic Art Museum

「写真美術館はなぜ、必要か?」
“Why Are Photography Museums Necessary?”

総合開館20周年を記念して国際シンポジウムを開催した。1940年、ニューヨーク近代美術館に写真部門が設立され、「写真美術館」の歴史が始まった。日本では1980年代後半から写真部門を持つ美術館が増え、当館も1990年に一次開館、1995年に総合開館した。現在では美術館が写真作品を扱うことが当たり前になり、作品も多様化している。世界で活躍するキュレーター・研究者を招き、今、改めて美術館における写真のあり方を考え、写真表現の未来を展望した。

日時：2016年11月23日（水・祝）　13:00〜18:00
会場：東京都写真美術館1階ホール
参加者数：104名
入場料：無料／要入場整理券
日英同時通訳付

登壇者

ジュディ・アニア Judy Annear
（前ニューサウスウェールズ州立美術館シニア・キュレーター Former Senior Curator, the Art Gallery of New South Wales, Sydney）
顧錚 Gu Zheng
（写真家、美術・写真評論家、復旦大学教授 Photographer and Professor, Fudan University）
サンドラ・フィリップス Sandra S. Phillips
（サンフランシスコ近代美術館写真部門名誉キュレーター Emeritus Curator, the San Francisco Museum of Modern Art）
キム・スンヒ Sunhee Kim
（前大邱美術館館長 Former Director, Daegu Art Museum）
フィリッポ・マッジア Filippo Maggia
（モデナ写真財団館長 Director, Fondazione Fotografia Modena）
司会　笠原美智子
（東京都写真美術館事業企画課長　Moderator: Kasahara Michiko, Chief Curator, Tokyo Photographic Art Museum）

総合開館20周年記念事業　国際シンポジウム
International Symposium for the 20th Anniversary of the Tokyo Photographic Art Museum

「初期写真国際シンポジウム　幕末」
“International Symposium: Photography in Bakumatsu Japan”

総合開館20周年記念「夜明けまえ　知られざる日本写真開拓史総集編」展に伴い、初期写真に関する国際シンポジウム「幕末」を開催した。幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。本シンポジウムでは、芸術作品に用いられる、つまり、東京都写真美術館にとって「夜明け」となる以前の写真は、いったいどのようなものだったのか。そして、それらに宿る作品性とはどのようなものなのかについて、活発な議論が交わされた。歴史資料としても注目される幕末期に制作された写真について、各登壇者による約20分間の発表と、それぞれの発表に基づく討論を行い、初期写真の意義を再考した。

日時：2017年3月26日（日）　15:00〜18:00
会場：東京都写真美術館1階ホール
参加者数：190名
入場料：無料／要入場整理券
日英同時通訳付

登壇者

高橋則英
（日本大学藝術学部教授、Professor, Nihon University College of Art）
クリスチャン・ポラック Christian Polak
（明治大学政治経済学部客員教授、Guest professor, Meiji University, School of Political Science and Economics）
セバスティアン・ドブソン Sebastian Edmund Dobson
（初期写真研究家、Independent Fine Art Professional/ Writer/ Lecturer）
ルーク・ガートラン Luke Gartlan
（セント・アンドリューズ大学准教授、Senior Lecturer, University of St Andrews School of Art History）
范如菀 Fan juwan
（国立台南大学動画媒体設計研究所助理教授、Assistant professor, National University of Tainan Graduate institute of animation media design）
フィリップ・ダレス Philippe Dallais
（チューリッヒ大学研究員、Researcher, University of Zurich）
司会　三井圭司（東京都写真美術館・学芸員）